

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		きっずTREE 児童発達・放課後等デイサービス				公表日	令和7 年 2 月 6 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		必要なスペースについては確保できている。身体的を使った遊びや運動を行う場合は敷地内の庭や畑、近隣の散歩や公園の利用を行っている。	現状の中でその時々 の 最良の環境を整えます。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		指定基準を満たしている。	支援に必要な人員配置を引き続き維持していきます。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		シンプルな環境にし、個々にとってわかりやすく伝える工夫を心掛けている。	子供達の発達に応じた設備の工夫をし、その時々 の 最良の環境を整えます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		不快さを感じる環境にならないように努力している。子供の特徴や本児の希望も加味しながら活動場所を工夫している。	現状の中でその時々 の 最良の環境を整えます。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		必要な時は、他児がいない静かな個室が使用できるよう準備している。	本児の意思も確認しながら必要な時は使用できるようにします。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		休憩時間を利用して意見交換している。	定期的にその様な時間を設定していきます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員間で情報共有し日々の支援に繋げるよう努めている。	定期的にその様な時間を設けて改善に努めます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		休憩時間を利用して意見交換をし、改善できるように努めている。	定期的にその様な時間を設けて改善に努めます。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	自己評価は行っているが、外部評価は行っていない。	今回の保護者評価を元に業務の改善を図るとともに、今後第三者による評価の実施について検討します。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		医療機関とのケース検討会や、事業所内研修を実施している。外部研修への参加を奨励し参加費等を法人で一部負担する制度を設けている。	引き続き職員が専門性を向上できるように事業内外での研修の実施、参加の推奨を行っています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		○	この度支援プログラムを作成公表しました。	支援プログラムを作成公表し、日々の支援に役立てていきます。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成しているか。	○		子供と保護者様のニーズを聞きながら発達検査等の客観的なアセスメントの結果も踏まえて支援計画を立てるようにしている。	今後も継続して実施しよう。	
	13	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		必要に応じて園、学校、相談支援機関、医療機関と情報交換しながら支援の方向性を決めるよう努力している。子供によって活動の内容や目標設定が異なることを前提に、必要な支援の内容・方向性について示すようにしている。	今後も継続して実施しよう。	
	14	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画に沿った方向性の中で支援している。職員間での支援計画の検討や共有がやや不十分などところがある。	職員間の日々の情報共有の際に支援計画も念頭に置きながら長期・短期の両方の視点で子供の支援を考えられるようにしていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		発達検査結果や日常の行動観察を行いアセスメントしている。	今後も継続して実施しよう。	
	16	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）には、児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		職員同士で子供に必要な支援は何かを、その都度相談しながら、具体的に内容を決定している。	今後も継続して実施しよう。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		プログラムを立案する職員を中心に、他の職員と相談しながらプログラム内容を決定している。	今後も活動プログラムの立案を実施し絵カードなど視覚支援を用いて子供達にわかりやすく提示していきます。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		子供が活動の流れをイメージしやすいよう、プログラムの大枠は固定している。季節や子供の興味に応じてその都度個々のプログラムの中身を変更している。	今後も季節や行事等に合わせた活動プログラムを計画、実施していく。保護者に対して送迎時の報告、面談等で活動状況を報告するようにします。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成し、支援が行われているか。	○		子供によって活動の内容や目標設定が異なることを前提に支援計画を作成し、個別活動の時間と集団活動の時間を設定し、支援している。	丁寧な支援が行えるよう個々の状況に応じた支援計画を作成し支援していきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前に職員間でその日の利用児や活動予定を確認している。	現状を引き続き維持しながら、さらにより意思疎通できる仕組みを検討していきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		必要なことについては職員間で共有する場を設けている。	現状を引き続き維持しながら、さらにより意思疎通できる仕組みを検討していきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の記録は担当職員が記すようにしている。記録をもとにした支援効果の検証や改善点の話し合いは数か月ごとに行うようにしているが、十分ではない。	現状を引き続き維持しながら、支援効果の検証、改善点のミーティングをより丁寧に行えるよう情報共有の体制を整備します。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年ごとにモニタリングを実施し個別支援計画の見直しを図る。保護者様からの希望があれば計画に反映させる。	現状を引き続き維持しながら、保護者様からの希望を反映させながら実施します。
	24	【放デイのみ】 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	○		子供に必要な自立支援と日常生活の充実の為の支援（買い物、散歩、クッキング等、地域の先生によるヨガ体操、陶芸教室）を提供している。	現状を引き続き維持しながらその子供に必要な支援を考えて提供していきます。
	25	【放デイのみ】 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		選択肢を与え、自分の気持ちを言葉やジェスチャーで発信できるよう課題に取り入れている。	さらに、自己決定をする力を育む支援を考え提供していきます。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		依頼があったときには心理士や保育士など子供の状況をよく理解した職員が参加します。	必要があると思ったときには積極的に参加します。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		小児科医や療育センター、行政（虐待など）と連携して情報共有、交換している。	引き続き機関連携を続けながら支援をします。
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		加古川市こども療育センターの連携を取っています。医療機関とのケース検討会の実施。	引き続き機関連携を続けながら支援をします。
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	コロナ発生と共に自粛が進み再活動が難しくなっている。	活動の機会が提供できるよう検討していきます。
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時や面談時に子供の状況を丁寧に説明している。	引き続き送迎時や面談時に丁寧に説明していきます。
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	研修などで家族に対してプログラムは現在実施していません。	保護者様に対する勉強会等の企画を検討していきます。
	32	【児発事業所・児発センターのみ】 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		併行利用している事業所との会議や送迎時、訪問時に子供の情報を共有しながら支援を行っている。身辺自立できた子供さんは、姉妹事業所（アップルTREE）への紹介を行っている。	今後も継続して実施します。
	33	【児発事業所・児発センターのみ】 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		学校への発達検査のデータなど情報の提供をしている。	引き続き必要な情報共有や相互理解を図っていきます。
	34	【児発センターのみ】 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	35	【児発センターのみ】 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	36	【児発センターのみ】 (自立支援)協議会・こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	37	【放デイのみ】 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		保護者様を通じて情報共有など適切に行っている。	今後も継続して実施します。
	38	【放デイのみ】 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		当事業所の利用前に利用していた事業所から日々の細かい情報を提供してもらっている。	今後も継続して実施します。
	39	【放デイのみ】 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		計画相談員を通じて支援の情報を提供している。地域の企業で仕事体験する活動を支援する会の「お仕事探検隊」の方々と協力して情報提供を心掛けている。	今後も継続して実施します。

	40	【放デイのみ】 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○	積極的に参加できていない。	今後は参加できるよう検討していきます。
保 護 者 へ の 説 明 等	41	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に紙面を用い丁寧に説明している。	今後も継続して実施します。
	42	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		計画相談員から話を聞きとり（支援計画書を元に）、児童発達支援計画・放課後等デイサービス計画を作成している。	今後も継続して実施します。
	43	「児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		変更のある個所は示し説明している。保護者様の希望があれば反映させていく。	今後も継続して実施します。
	44	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		（できる限り）半年に1度面談を行い子供の状況を丁寧に説明し相談等に答えている。	定期的に面談ができるよう努力します。
	45	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	父母の会、保護者会は実施していません。	保護者様のニーズをはかり、検討します。
	46	こどもや保護者からの相談や苦情、申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や苦情、申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情を受けた場合は敏速に会議をもち対応へとつなげます。	相談や苦情を受けた場合は迅速かつ適切に対応できるよう努めます。
	47	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		行事予定はその都度、紙面でお伝えしています。	今後はさらに活動概要、行事予定等を子供や保護者様に発信していきます。
	48	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取り扱いについては、就業規則に盛り込み十分に対応している。	今後も継続して実施します。
	49	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		子供には絵カードを活用して情報を伝達していきます。親御さんには面談時だけでなく送迎時や電話の際に気持ちに寄り添った意思疎通を心掛けています。	親御さんとの日々のコミュニケーションを大切にしていきたいと思います。日々の出来事は送迎時などに親御さんとの会話の中でお話したいと思います。
	50	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		招待ではなく、地域住民によるヨガ体操教室や陶芸教室を実施しています。	今後も継続して実施します。
	51	【放デイのみ】 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時や電話などで相談があれば対応し、改めて面談の時間を設け丁寧に支援している。	今後も継続して実施します。
非 常 時 等 の 対 応	52	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを作成し運用している。	必要に応じてマニュアルを改訂し周知徹底を継続します。
	53	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		防災についての絵本などを見て防災について学び、机の下に入り身を守る練習をしている。避難経路を確認し、避難場所まで歩きます。	今後も防災について学ぶとともに避難訓練を実施します。
	54	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		保護者からのアセスメントシートで確認している。	今後も継続して実施します。
	55	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		家庭からの聞き取りをしている。	家庭と連携して、必要であれば医療機関に出向き医師の指示に基づいて支援します。
	56	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全マニュアルを作成し安全管理された中で支援しています。	引き続き研修や訓練を講じて安全管理に周知します。
	57	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○	家族等への周知が十分でない。	改めて安全計画の取り組み内容を家族等に終始するよう努めます。
	58	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットが起きた場合は、その日の振り返りで共有しヒヤリハット報告書を市町村に提出する。職員会議で共有している。	ヒヤリハット事例書の作成及び事業所内での共有の徹底に努めます。スタッフで共有する際に対応策がその後の療育の中で実施できているかも報告するようにし、同じことを繰り返さないように努めます。
	59	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		研修会に参加し、職員間で情報を共有していく。	どのような事が虐待になるのか常に意識して職員間で情報を共有していく。
	60	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		基本的に身体を拘束する機会はない。散歩時の道路への飛び出しには言葉よりまず手で体を制止するようにしている。止められたことを納得するように説明する。	必要な場合は支援計画書に記載し、衝動的な要素が多い動作などは、親との話し合いを密にし対応を考えている。